

令和5年度 第1回 学校運営協議会

司会：教頭 記録：教務課長

- 1 日時・場所 令和5年5月30日（火） 午前9時30分から午前11時30分
沼津特別支援学校 伊豆田方分校 パソコン室
- 2 参加者 学校運営協議会委員
河野 真人、鈴木 志津子、岩田 聡志、海野 貴、室伏 麗香

伊豆田方分校
校長、教頭、部主事、教務課長
- 3 校長挨拶
 - ・コロナ5類相当となり、生徒たちの生活はコロナ前に戻りつつある。
 - ・昨年、学校評議委員会→学校運営協議会に変更され、独立した組織として学校運営に取り組む流れが定着しつつある。
 - ・沼津特別支援学校関連の「学校運営協議会」となった影響が顕著な例として本校 原地区連合自治会長、原地区戸田地区商工会議所の事務局長などが新規で参加され、学習活動に広がりが見られている。そして、児童生徒が地域でどんな学習ができるか、地域にどんな恩返しができるか、協議を深めようとしている。
併せて、地域の方に対して障害についての理解啓発、地域に特別支援学校があることで、地域が何か得られるメリットについて模索している。
 - 愛鷹 中長期的には愛鷹分校があることで門池地区に障害の理解が進んでいくこと、短期的には目前に迫った創立10周年のイベントの計画、実施が目標となっている。この機会に、学校運営協議会の協力を得て地域に与える影響、地域づくりにつながるように進んでいってほしい。
 - ・伊豆田方分校に期待すること
委員の皆様から意見を広範囲に頂きながら、「評議委員会」から「運営協議会」として発展、伊豆田方分校が地域と共に発展していくこと。
- 4 委任状伝達 レジユメに沿って進行
- 5 自己紹介 レジユメに沿って進行
- 6 日程説明 レジユメに沿って進行

7 本年度の学校経営計画概要等説明（教頭）

※事前配布 グランドデザイン・学校経営書参照

・学校経営について

学校教育目標『共に育てる 自立と輝き』

キーワードは『つながり』

・教育課程の変更について

昨年度の学校運営協議会での討議を踏まえ、今年度より木曜日を1日作業日と設定した。1日作業日のメリットである「地域へ出やすさ」を生かし、就労継続支援B型事業所「志～cocoro～」と共同で隣接市町の病院の花壇づくりを行った。これは半日作業では実現しなかった新たな事例である。今後も作業班を中心に、小学校・高等学校や各施設との共同学習を計画している。

・経営計画書について

〈安全〉

地域での安全につながる防災教育

→防災学習は引き続き特色として実施する。

誰もが安心して通える学校

→生徒の生活空間、学習空間における安全安心な環境整備を継続する。

〈専門〉

多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援

→生徒情報の共有や専門的な視点に立った個に寄り添った指導を行う。

個に応じた適切な進路決定

→生徒の実態や学年に応じた段階的な指導の充実、関連情報の提供と共有を図る。

〈連携〉

関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導

→生徒の出身中学校、居住地区行政、福祉、医療、実習先、進路先と連携がとれている状態にある。

生徒の自立と輝きに向けた共生・共育

→地域交流の実践を情報発信、学校運営協議会による学校応援体制の構築を図る。

〈チーム〉

生きがいのある職場

→生徒への指導の充実を図りつつ、業務の効率化、ライフワークバランスも並行して大切にしていく。

【委員からの質問・意見】

河野氏 出身中学との連携について具体的にどのようなことをしているか。

【学校からの回答】

教頭→教頭と部主事が中心となっている。

部主事が中学校に出向いて情報共有を行うようにしている。

課題や支援について居住地の市町と情報共有をしている。

校長→教育支援計画に基づいた個々の夢を実現するため、地域とのつながりを大切にしていきたい。

8 授業参観

9 協議

- 河野氏 協議のイメージと意図を説明
学校教育目標「共に育てる自立と輝き」「つながり」を実現するため、
地域での交流 成人との交流 製品の販売場所 地域の特別支援学級
地域の活動場所 居場所をキーワードに情報共有や拡大を図っていきたい。
- 教頭 地域交流の現状（R4年度の実績やR5年度の予定）の説明
いろいろな方々との交流機会があることは伊豆田方分校の特徴である。
田方農業高校内に立地しているというメリットを活かすことができている。
- 部主事 地域の事業所である志 cocoro との植花交流がスタートした。
多様な人材活用事業では、技術的な専門家の不足を補っている。
活動は充実してきているが、進めていく中で改善したい点も出てきている。
園芸班の販路の拡大などが課題として挙げられる。
- 岩田氏 野菜の販路について提案
志 cocoro が開設したコインランドリーの駐車場が利用できる。
事前に告知すれば無人販売所のように活用できる。ポスティングでも協力できる。
自立支援協議会主催の販売会が月2回行われている。福祉課と交渉すれば参加が可能だと思われる。町内の福祉事業所も多数参加している。
- 河野氏 作物の販売で田農と競合するのは避けたい。
伊豆の国特別支援学校で、販売に協力してもらうのはどうか。
野菜の質の向上に向け、田農の先生に技術指導の協力をいただいてはどうか。

- 海野氏 生徒にとっての販売の意味は何か？売れる喜び？対価を得る喜び？大切にしていることは売ること？お金にならなくてもよいではないか。役に立つという実感は、対価として現れなくても得られる。
- 鈴木氏 伊豆の国函南フードバンクをとおした、困窮者支援という活動もある。儲けが出る販売とは違う価値を生徒が理解できれば、やってみてもいいのではないか。
- 岩田氏 家族とのコミュニケーションのきっかけとして、持ち帰れないか？親とのつながり、愛情、コミュニケーション力、感謝される経験を一番身近な場所で実感できるのではないか。
高等部卒業後も、親子関係の良し悪しは生活の中で大切な要素になっている。親子こそ良好な関係を保ってもらいたい。その観点からも、自分が作った作物を家族に喜んで食べてもらうのはいいことだと思う。事業所ではよくやっている。学校でもできればよいと思う。
- 室伏氏 作業メンバー編成は、少数精鋭が良いのか？4作業種が妥当なのだろうか？メンバーが互いに、計画性、観察力、コミュニケーションなどを高め合うのに十分な環境となっているか。作業種や作業班当たりの人数の検討に余地があるのではないか。
田農生にとって田方分校は敷居が高いようだ。田農生が見える場所に、分校生をアピールできる掲示コーナーなどがあるとよい。分校前を気軽に通れる雰囲気してほしい。

10 諸連絡（次回運営協議会の日程など）

第2回 10月24日（火）

前期活動報告と協議「学校生活から社会生活へスムーズな移行について」

第3回 9月4日～11月30日の期間内に委員1人1回2時間程度

授業参観と情報交換

※委員が個別にじっくりと参加できる方法とした新スタイルで実施